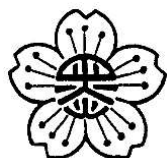


学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

2月号



黒門

発行日 令和6年2月1日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

黒門の子供たちは図書に親しんでいるか？本好きか？

副校長 岩崎 公慈

昨年度の2月号で「読書活動の充実と電子図書 MottoSokka!の導入」として読書活動について取り上げました。**黒門小学校は好んで本を読む児童が多く、専門的な本や分厚い本を手に行っている姿を見かけることは相変わらず多いです。**

7月に続き、12月に実施した学校評価アンケート(児童アンケート)の中で「**進んで読書をしている**」**に対して肯定的な評価をした児童は 79.2%でした。**7月の87.5%から 8.3 ポイント減っています。肯定的な評価は「A あてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D あてはまらない」の回答のうちA・B回答のした児童の割合です。

実際の児童の様子としてあまり変化は見られないのですが、児童自身がそう感じているのはなぜか考えてみました。「5類になり、屋外で活動することも増え、読書の機会が減った」「学習や習い事の時間が多く読書の時間がとれない」「タブレット端末を使用した電子書籍 MottoSokka! (Yomokka!)は活用しているが紙の本とは違うと感じている」など様々考えられます。

全国学校図書館協議会では、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っています。小学生は4～6年生の抽出児童を対象に実施しています。第68回調査(2023年)の結果によると、2023年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生は12.6冊、不読者(5月1か月間に読んだ本が0冊の児童)の割合は、小学生は7.0%とのことです。本校児童の実態はどうでしょうか。図書室では一人3冊まで本を借りることができます。**5月の貸出記録を確認すると平均8冊程度で高学年になるほど少なくなります。**しかし、借りている冊数が少ない児童の中には自宅から本を持ってきて読んでいる児童もいますし、厚い本を読んでいる児童もいます。電子書籍 Yomokka! の利用時間は少ないものの紙の本を熱心に読んでいる児童もいます。Yomokka! の利用履歴から読書ページ数、読書時間、読了冊数(読み終えた本の数)が分かります。個人差はあるものの、**5月には4, 5冊程度の本を読み、1学期に比べ2学期には読書量が減っている傾向**が見られました。もしかして、読み物の本より、調べ学習のための本に接する時間の方が多かったのではないか。そんな考えも浮かびました。C・D回答をした児童に直接尋ね、改善を図っていくことも必要かと感じました。

児童一人一人の実態に応じて読書活動を進めていくことが必要かつ効果的です。図書委員会は秋の読書月間に図書に親しむため「**本のたからさがし**」「**しおりのプレゼント**」などの企画をしてきました。今後もよい読書習慣が身に付くように指導、工夫を重ねてまいります。

寄せられた声を教育活動の工夫改善に生かすとともに子供たちへの励ましとして

12月に行った学校評価アンケートと合わせ、いただいたご意見を踏まえ教育活動のさらなる充実に向けて取り組んでまいります。なお、学校評価アンケートの結果は本校ホームページ

<https://www.taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310219>に掲載しておりますのでご覧ください。

1月の学校公開後に実施したアンケートは「児童の活躍の様子、励ましの言葉などもぜひお寄せください。」としました。短い回答期間でしたが、多数のご意見をいただきました。担任が教室で取り上げたり、児童朝会の校長講話の中で紹介したりして児童に伝えています。